



認知症とともに、 わたしのまちで生活する

ステージ A

Aさんの場合

**Aさんにはこんな
症状がありました**



Aさんプロフィール
80歳/女性/
結婚歴はなく
一人暮らし

- 夕飯の買い物の計算ができず、お礼で払った。
- 置いたはずの物がみつからず、自分でもおかしいと思うようになった。

友人にも言えず悩んでいたところ、北区ニュースで「認知症カフェでの医師相談」の案内を目にし、参加してみました。

〈もの忘れ相談(医師相談)〉

認知症の専門医を紹介してもらいました。高齢者あんしんセンターのスタッフがその場に来てくれてとても安心できました。

詳細はP16

〈認知症カフェ〉

認知症カフェに遊びに行って、相談員や同じような思いの人とおしゃべりができてとても安心できました。

詳細はP14

〈かかりつけ医〉

認知症の専門医で診断を受けた後、近くの先生に診療情報を提供してもらいました。指示通り、半年ごとに通って経過をみてもらっています。

詳細はP16

〈通いの場立上げ教室〉

高齢者あんしんセンターで通いの場立上げ教室に申し込んで、「通いの場立上げ教室(体操編)」に通いました。教室で知り合った仲間とこれからも運動を続けたいわ。

詳細はP14

〈こんちゃんサポーター〉

認知症カフェや病院に行く日に連絡をもらえたり、付き添ってもらったりしています。薬の飲み忘れがなくなったわ。

詳細はP15



Aさん以外のサービスの利用者からも、こんな声が届いています。

- 認知症カフェやふれあい交流サロンでいろいろな人と交流したり、お茶出しなどの役割を持ったりすることで張り合いのある生活を送ることができます。
- かかりつけ医を紹介してもらい、定期的な受診で経過観察ができるようになりました。
- 自分が認知症か不安でしたが、「もの忘れ相談」で早めに相談して気持ちが楽になりました。

※P11-12は地域の支援や介護サービスを利用した一例です。実際の利用は本人の状況により変わってきます。

AさんとBさんのケースをもとに、北区で認知症のサービスを受けるまでの流れを見てみましょう。認知症であってもできる事がたくさんあります。また、このまちのさまざまな人たちと支え合いながら自信を持った生活を続けることができます。



ステージB

Bさんの場合



Bさんプロフィール
 80歳/男性/
 妻と二人暮らし/
 認知症で通院治療中

● 妻が介護してくれていたのですがサービスを利用していなかったが、妻が脳梗塞で入院し、不安が強く、自宅で1人でいられなくなった。

遠方に住んでいる息子が困り、高齢者あんしんセンターに電話で相談しました。

Bさんにはこんな症状がありました

〈緊急ショートステイ〉

ケアマネジャーが申込みの手続きをしてくれ、緊急で施設に1週間入所しました。その間に、ケアマネジャーが私の要望を聞きながら、自宅で1人でも生活ができるように準備してくれました。



〈配食サービス〉

毎日、栄養バランスのとれた弁当が届くのでとても便利。和食と洋食から選べるのもいいですね。

詳細はP15

〈ごみの訪問収集〉

決まった日にごみを取りに来てくれます。ヘルパーと一緒にごみをまとめておいて、収集日の朝には息子や「こんちゃんサポーター」が電話をしてくれるので確実に玄関まで出せます。

詳細はP15

〈かかりつけ医〉

不安定な状態が落ち着くまでは、近所のかかりつけ医に訪問診療をしてもらいました。顔見知りのお医者さんなのでほっとしました。 詳細はP16

〈介護保険サービス〉

デイサービスやショートステイを利用して、入浴をしたり、周りの人と一緒に食事をしたりするのがとても楽しいです。

詳細は「介護保険利用の手引き」をご覧ください

〈民生委員の訪問〉

近所の民生委員を紹介してもらいました。時々自宅に来てくれて相談しやすいです。 詳細はP15



Bさん以外のサービスの利用者からも、こんな声が届いています。

- かかりつけ医やケアマネジャーが連携し、サービスや地域の見守り体制を整えてくれたおかげで自宅で生活できるようになりました。
- 家族が「あんしん北(P20)」に、成年後見制度や金銭管理サービスを相談しています。